



いろいろな検診が続いています。ホールに集まった5年生の中に「ならんで」「静かにならぼう」と友達に声がけしてくれている子がいました。よい「気づき」と「働きかけ」だと思いました。

～マラソン記録会録会 その2～

一生懸命な顔はかっこいい顔



友だちを応援する顔もよい顔でした。

3年生が校庭から校舎の向こうに走って行きました。4年生の直哉先生が、走り終わった4年生に、「みんなの応援が校舎の向こうを走っている3年生に聞こえるかもしれないよ。」と呼びかけると、応援の声のボリュームはますます上がりました。「最後まで1秒でも縮めよう!」「前にしっかり進んでいるぞ!いけるぞ!」という先生方の声や友だちの応援に押されて走って行きます。

子ども達には、決して走るのが得意な子ばかりではないはずですが、そんな子達も、「自分の力を伸ばそう、目標をもって取り組もう」と言っていてがんばりました。そして、こうして最後のまとめのマラソンを走っています。

長年のライバルとしてのぎを削る子、応援に励まされてむしろ笑顔を見せる子、ときおり見せる苦しい顔までが、一生懸命走っている「かっこいい顔」でした。やっと見えてきたゴール・出迎える友だちに表情をやわらげる子、ゴールしてホッとした表情に変わる子。やり終えて、子ども達の顔はさらに輝きを見せるのでした。

種市小学校を ますます、よい学校にしよう

徐々にいろいろな取り組みが行われています。6月23日（火）の全校朝会で、これまでの様子を振り返りながら、子ども達にお話をしました。 <以下が話した概要です>

マラソンで、たくさんの必死に走る顔が見られました。得意な子も苦手な子も、一生懸命走るその一生懸命さがよいと思うのです。

また、以前お伝えしたように、磯掃除のときには、まじめに働く高学年の姿が見られました。

このように、一生懸命であること、まじめであることが、この種市小学校のよいところだと思います。そして、この、みなさんの一生懸命さやまじめさが広がれば、種市小学校は、ますますよい学校になっていくと思うのです。

南部ダイバーで駆け出す子ども達

最近、朝8時、「南部ダイバー」の音楽が鳴り始めると、校庭での遊びをやめて、さーっと走って玄関に向かう子が増えてきました。よく見たら、高学年の人たちが、小さい子たちに「さあ校舎に入ろう」と走りながら声をかけてくれていました。なるほど、そうやって手本を見せたり、誘ったりしてくれているおかげで「気持ちを切り替えるまじめさ」が広がっているのだと思いました。

さらに、そのような動きが、業間時間や昼休みの終わりにも見られるようになったらいいなあと期待してしまいます。

あいさつの取り組み

今週からは、児童会で「あいさつ」の取り組みが始まりました。これも、あいさつの手本を示すのだそうです。



月曜日始まった取り組み。
あいさつ運動に参加している子は目印にゼッケンをつけています
火曜日には4年生も加わりました。

縦割り掃除



また、縦割り掃除では、大きい子が1年生に床の拭き方を一生懸命教えていました。1年生もすなおに言うことを聞いていました。学校の中のあちこちで、まじめに一生懸命に掃除する姿が広がっていきそうです。



みなさんの力に期待したい

こうやって、声をかけたり、手本を示したりすることで、「よいことをしよう」という声が飛び交い「よい行いをめざそうとする気持ち」が広がったら、ますます、よい学校になると思うのです。

ですから、高学年の子達にみなさんをお願いです。「こうした方がいいなあ」と思うことは、どんどん手本を見せたり声をかけたりしてほしいのです。また、声をかけられた人たちは、そのよいことをどんどん真似して行ってほしいのです。

さあ、どんなことが広がったらいいでしょう。どんなことができそうでしょう。

みなさん自身の力で、自分達の力で、この学校をますますよくしていきたいと思うのです。それが、みなさんにはできるのではないかと思います。学級で考えてみて下さい。

放送での朝会でした。顔は見えませんが、あいさつの声は教室から放送室まで届きました。こちらの声も届いて、きっと受け止めてくれているのではないかと思います。